

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7071303号

(P7071303)

(45)発行日 令和4年5月18日(2022.5.18)

(24)登録日 令和4年5月10日(2022.5.10)

(51)国際特許分類

F I

E 0 6 B 1/56 (2006.01)

E 0 6 B 1/56 B

E 0 4 B 1/00 (2006.01)

E 0 4 B 1/00 5 0 3

E 0 4 B 1/343(2006.01)

E 0 4 B 1/343 W

請求項の数 5 (全11頁)

(21)出願番号 特願2019-20666(P2019-20666)
(22)出願日 平成31年2月7日(2019.2.7)
(65)公開番号 特開2020-128630(P2020-128630
A)
(43)公開日 令和2年8月27日(2020.8.27)
審査請求日 令和3年3月30日(2021.3.30)

(73)特許権者 390005267
Y K K A P 株式会社
東京都千代田区神田和泉町 1 番地
(74)代理人 110000637
特許業務法人樹之下知的財産事務所
(72)発明者 佐藤 圭亮
東京都千代田区神田和泉町 1 番地 Y K K
A P 株式会社内
(72)発明者 相澤 雅也
東京都千代田区神田和泉町 1 番地 Y K K
A P 株式会社内
審査官 砂川 充

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 建具取付構造、玄関底および建具取付方法

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

支柱および屋根を備えた玄関底に形成される開口部に建具を取り付ける建具取付構造であって、

前記支柱に沿って固定される固定縦材および前記固定縦材に取付可能な可動縦材によって前記建具の縦枠が構成され、

前記固定縦材は、前記支柱に固定される固定見込み片部と、前記固定見込み片部に連続した一対の固定見付け片部とを有し、

前記可動縦材は、面材を保持する保持溝が形成されていると共に前記固定見込み片部に対して間隔を隔てて対向する可動見込み片部と、前記可動見込み片部に連続した一対の可動見付け片部とを有し、

前記可動縦材は、前記固定縦材の一対の固定見付け片部を呑み込んで配置され、

前記一対の可動見付け片部のうち前記固定見込み片部側に位置する側縁部は、見込み方向において前記一対の固定見付け片部側に折曲された折曲片部と、前記折曲片部から更に見付け方向において前記固定見込み片部側に延出した取付片部とによって構成され、

前記一対の可動見付け片部は、前記一対の固定見付け片部に対してそれぞれ取り付けられ、

前記取付片部は、前記折曲片部の見込み方向の寸法よりも見付け方向に大きい寸法とされ、

前記可動見込み片部には、前記保持溝に対して見込み方向外側に配置されるビスホール

が形成され、

前記固定見付け片部は、前記ビスホールに対して見込み方向外側に配置され、

前記一对の可動見付け片部は前記一对の固定見付け片部に対して位置調整可能に見込み方向外側から重なって配置されている

ことを特徴とする建具取付構造。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の建具取付構造において、

前記固定見付け片部の先端は、前記可動見付け片部に向かうに連れて見込み方向内側に傾斜している

ことを特徴とする建具取付構造。

10

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 に記載の建具取付構造において、

前記取付片部には、前記固定見付け片部に当接する複数の突部が当該固定見付け片部側に突出して形成されている

ことを特徴とする建具取付構造。

【請求項 4】

支柱と、屋根と、開口部に設置された建具と、請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載の建具取付構造における固定縦材および可動縦材とを備え、

前記支柱に沿って固定される前記固定縦材および前記固定縦材に取付可能な前記可動縦材によって前記建具の縦枠が構成され、

前記一对の可動見付け片部は前記一对の固定見付け片部に対して位置調整可能に重なって配置されている

ことを特徴とする玄関庇。

20

【請求項 5】

支柱および屋根を備えた玄関庇に形成される開口部に請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載の建具取付構造を用いて建具を取り付ける建具取付方法であって、

前記建具の縦枠を構成する前記固定縦材および前記可動縦材のうち前記固定縦材を前記支柱に固定し、

前記可動縦材を前記固定縦材に対して位置調整し、

前記可動縦材を前記固定縦材に取り付ける

ことを特徴とする建具取付方法。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、開口部に引き戸や窓などの各種の建具を取り付ける建具取付構造、玄関庇および建具取付方法に関する

【背景技術】

【0002】

従来、ポーチ庇と、ポーチ庇の先端側を支える二本の支柱とを備える玄関ポーチ（玄関庇）が知られており（特許文献 1 参照）、二本の支柱間や建物外壁間の開口部に引き戸が取り付けられている。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開 2000 - 87446 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、特許文献 1 に記載の玄関ポーチでは、支柱に対して引き戸のサッシ枠を直接に取り付けているので、施工誤差によって支柱が垂直方向に対して傾いている場合にはサッ

50

シ杵も傾いた状態で設置されてしまう。また、例えば既設の玄関ポーチの支柱が経年劣化によって傾いている場合にも、支柱に直接に取り付けるサッシ杵も傾いてしまう。このため、支柱およびサッシ杵の間に複数の介物（スペーサー）を設置してサッシ杵を垂直出しする必要があるため施工が煩雑となってしまう。

【 0 0 0 5 】

本発明は、開口部に建具を簡単に取り付けることができる建具取付構造、玄関庇および建具取付方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

本発明の建具取付構造は、支柱および屋根を備えた玄関庇に形成される開口部に建具を取り付ける建具取付構造であって、前記支柱に沿って固定される固定縦材および前記固定縦材に取付可能な可動縦材によって前記建具の縦杵が構成され、前記固定縦材は、前記支柱に固定される固定見込み片部と、前記固定見込み片部に連続した一对の固定見付け片部とを有し、前記可動縦材は、前記固定見込み片部に対して間隔を隔てて対向する可動見込み片部と、前記可動見込み片部に連続した一对の可動見付け片部とを有し、前記一对の可動見付け片部は前記一对の固定見付け片部に対して位置調整可能に重なって配置されていることを特徴とする。

10

本発明の玄関庇は、支柱と、屋根と、開口部に設置された建具と、前述した本発明の建具取付構造における固定縦材および可動縦材とを備え、前記支柱に沿って固定される前記固定縦材および前記固定縦材に取付可能な前記可動縦材によって前記建具の縦杵が構成され、前記一对の可動見付け片部は前記一对の固定見付け片部に対して位置調整可能に重なって配置されていることを特徴とする。

20

本発明の建具取付方法は、支柱および屋根を備えた玄関庇に形成される開口部に前述した本発明の建具取付構造を用いて建具を取り付ける建具取付方法であって、前記建具の縦杵を構成する前記固定縦材および前記可動縦材のうち前記固定縦材を前記支柱に固定し、前記可動縦材を前記固定縦材に対して位置調整し、前記可動縦材を前記固定縦材に取り付けることを特徴とする。

【発明の効果】

【 0 0 0 7 】

本発明によれば、開口部に建具を簡単に取り付けることができる建具取付構造、玄関庇および建具取付方法を提供することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 8 】

【図 1】本発明の実施形態に係る玄関庇を示す正面図。

【図 2】前記実施形態に係る玄関庇を示す側面図。

【図 3】前記実施形態に係る玄関庇を示す横断面図。

【図 4】前記実施形態に係る玄関庇における建具取付構造を示す横断面図。

【図 5】図 4 に示す建具取付構造による位置調整を示す横断面図。

【図 6】本発明の変形例に係る建具取付構造を示す横断面図。

【発明を実施するための形態】

40

【 0 0 0 9 】

[本実施形態の構成]

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。

図 1 から図 3 において、本実施形態に係る屋根構造物としての玄関庇 1 は、地面に立設された左右の支柱 2（2 A，2 B）と、建物の外壁 5 に取り付けられて支柱 2 A，2 B に支えられた屋根 3 とを備えており、支柱 2 A，2 B 間に形成された開口部 4 A に建具としての上吊り式の引き戸 6 が設置され、支柱 2 A および外壁 5 間に形成された開口部 4 B に建具としての引き違い窓 7 が設置され、支柱 2 B および外壁 5 間に形成された開口部 4 C に建具としての固定窓 8 が設置されている。

以下の説明において、玄関庇 1 の左右方向（間口方向）を X 軸方向とし、玄関庇 1 の上下

50

方向を Y 軸方向とし、玄関底 1 の見込み方向（奥行方向）を Z 軸方向とする。X , Y , Z 軸方向は互いに対向している。

【 0 0 1 0 】

支柱 2 A , 2 B は、前片部 2 1、後片部 2 2 および一对の側片部 2 3 を有して断面矩形状にそれぞれ形成されており、前片部 2 1 には樋部材 2 5（図 3 参照）が取り付けられている。屋根 3 には屋根勾配が設定されており、屋根 3 上を流れる雨水は樋部材 2 5 を通って排水されるようになっている。

引き戸 6 は、図 1 および図 3 に示すように、上枠 6 1、左右の縦枠 6 3 , 6 4 および中骨 6 5 によって構成される枠体 6 6 と、上枠 6 1、戸尻側の縦枠 6 4 および中骨 6 5 に嵌め殺しされた面材 6 7 と、引き戸 6 の左右方向（X 軸方向）にスライド可能に上枠 6 1 に吊下げ支持された戸体 6 8 とを備えている。面材 6 7 の下縁部は、縦枠 6 4 および中骨 6 5 に取り付けられた下框 6 2 によって保持されている。

10

引き違い窓 7 は、図 2 および図 3 に示すように、上枠 7 1、下枠 7 2 および左右の縦枠 7 3 , 7 4 によって構成された窓枠 7 5 と、窓枠 7 5 内に左右方向（Y 軸方向）に引き違い可能に設置された外障子 7 6 および内障子 7 7 とを備えている。本実施形態では、引き違い窓 7 に対して上側および下側の部分にはパネル材 7 8 , 7 9 が設置されている。

固定窓 8 は、図 3 に示すように、後述する可動縦材 1 5 および取付縦材 1 1 1 によって左右の縦縁部が保持された面材 8 1 を備えている。面材 8 1 の上下縁部は図示しない上枠および下枠によって保持されている。なお、固定窓 8 および屋根 3 の間や固定窓 8 および地面の間に間隔がある場合には、これらの間隔はパネル材（図示省略）によって仕切られる。

20

【 0 0 1 1 】

図 3 に示すように、引き戸 6 は縦枠 6 3 , 6 4 として断面略コ字形状の可動縦材 1 5 および当該可動縦材 1 5 が取り付けられる固定縦材 1 1 をそれぞれ備えており、固定縦材 1 1 が支柱 2 A , 2 B の各側片部 2 3 にそれぞれ固定されている。

また、引き違い窓 7 の縦枠 7 3 は、Y 軸方向に延びた縦枠見込み片に取り付けられた可動縦材 1 5 およびこの可動縦材 1 5 が取り付けられる固定縦材 1 1 によって構成されており、この固定縦材 1 1 は、支柱 2 A の後片部 2 2 に固定されている。縦枠 7 4 は、Y 軸方向に延びた縦枠見込み片に取付縦材 1 1 1 が取り付けられることによって構成されており、この取付縦材 1 1 1 は、外壁 5 に固定された躯体縦材 9 A に取り付けられている。

更に、固定窓 8 の面材 8 1 の一方の縦縁部（支柱 2 B 側の縦縁部）は可動縦材 1 5 によって保持されており、この可動縦材 1 5 および当該可動縦材 1 5 が取り付けられる固定縦材 1 1 によって支柱 2 B 側の縦枠 8 2 が構成されている。この固定縦材 1 1 は、支柱 2 B の後片部 2 2 に固定されている。固定窓 8 の面材 8 1 の他方の縦縁部（外壁 5 側の縦縁部）は、取付縦材 1 1 1 によって保持されており、この取付縦材 1 1 1 によって外壁 5 側の縦枠 8 3 が構成されている。この取付縦材 1 1 1 は外壁 5 に固定された躯体縦材 9 B に取り付けられている。また、面材 8 1 の上下縁部は図示しない上枠、下枠によってそれぞれ保持されている。固定窓 8 に対して上側、下側の部分にはパネル材などが適宜設置される。なお、取付縦材 1 1 1 は可動縦材 1 5 と略同様の断面形状に形成されている。

30

【 0 0 1 2 】

前述した固定縦材 1 1 および可動縦材 1 5 は、図 4 に示すように組み合わせられている。図 4 では、固定縦材 1 1 が支柱 2 に固定され且つ、可動縦材 1 5 が固定縦材 1 1 に取り付けられた状態を示している。

40

固定縦材 1 1 は、固定見込み片部 1 2 と、固定見込み片部 1 2 に連続した一对の固定見付け片部 1 3 , 1 4 とを有して断面略コ字形状に形成されている。可動縦材 1 5 は、固定見込み片部 1 2 に対して見付け方向の間隔を隔てて対向する可動見込み片部 1 6 と、可動見込み片部 1 6 に連続した一对の可動見付け片部 1 7 , 1 8 とを有して断面略コ字形状に形成されている。

固定見込み片部 1 2 は、Y 軸方向に沿って複数箇所が支柱 2 にネジ 1 0 によってネジ止めされている。固定見付け片部 1 3 , 1 4 は互いに概略同様に形成されて同寸法とされていると共に見込み方向において互いに間隔を隔てて対向して配置されている。可動見込み片

50

部 1 6 は固定見込み片部 1 2 よりも大きい見込み寸法を有している。可動見込み片部 1 6 の見込み方向における略中央部分には、面材 8 1 などをガasket を介して保持するための保持溝 1 6 1 が形成されている。可動見付け片部 1 7 , 1 8 は互いに概略同様に形成されて同寸法とされていると共に見込み方向において互いに間隔を隔てて対向して配置されている。可動見付け片部 1 7 は、固定見込み片部 1 2 における一方の側縁から延出しており、可動見付け片部 1 8 は、固定見込み片部 1 2 における他方の側縁から延出している。この可動縦材 1 5 は可動見込み片部 1 6 および可動見付け片部 1 7 , 1 8 によって形成される凹溝 1 5 1 内に固定縦材 1 1 の固定見付け片部 1 3 , 1 4 を呑み込んでいる。このため、可動見付け片部 1 7 , 1 8 は固定見付け片部 1 3 , 1 4 と重なり合って配置されている。可動見付け片部 1 7 , 1 8 のうち固定見込み片部 1 2 側に位置する側縁部 1 7 1 , 1 8 1 は、見込み方向において固定見付け片部 1 3 , 1 4 側に折曲された折曲片部 1 7 2 , 1 8 2 と、折曲片部 1 7 2 , 1 8 2 から更に見付け方向において固定見込み片部 1 2 側に延出した取付片部 1 7 3 , 1 8 3 とによって構成されている。この折曲片部 1 7 2 , 1 8 2 および取付片部 1 7 3 , 1 8 3 と、固定見付け片部 1 3 , 1 4 のうち外部に露出する部分と、支柱 2 とによってシール目地 1 9 が形成されている。取付片部 1 7 3 , 1 8 3 はネジ 1 0 によって固定見付け片部 1 3 , 1 4 にそれぞれネジ止めされており、シール目地 1 9 には、シール材 1 9 1 が施工されている。このため、取付片部 1 7 3 , 1 8 3 に取り付けられたネジ 1 0 はシール材 1 9 1 に埋められて露出しない配置となっている。なお、可動見付け片部 1 7 , 1 8 は、固定見付け片部 1 3 , 1 4 に対して取り付けしていない状態では、固定見付け片部 1 3 , 1 4 と重なっている範囲で当該固定見付け片部 1 3 , 1 4 に沿って位置調整可能である。

10

20

【 0 0 1 3 】

以下、引き戸 6 の開口部 4 A への取付手順について説明する。

まず、枠体 6 6 の戸先および戸尻の両側に可動縦材 1 5 を設け、且つ各可動縦材 1 5 の凹溝 1 5 1 に固定縦材 1 1 の固定見付け片部 1 3 , 1 4 を呑み込ませた状態とし、このような状態とした枠体 6 6 を開口部 4 A に配置する。

次に、各固定縦材 1 1 を X 軸方向において各可動縦材 1 5 の凹溝 1 5 1 から突出させて支柱 2 A , 2 B の側片部 2 3 にそれぞれ押し当て（図 5 (A) 参照）、各側片部 2 3 に各固定縦材 1 1 の固定見込み片部 1 2 をネジ止めする。このようにネジ止めした各固定縦材 1 1 は、支柱 2 A , 2 B の各側片部 2 3 に沿って配置されるので、例えば支柱 2 A , 2 B が垂直方向（ Y 軸方向）に対して X 軸方向に傾いている場合には、各固定縦材 1 1 も支柱 2 A , 2 B と同様に垂直方向に対して傾いて配置される。

30

次に、各可動縦材 1 5 を各固定縦材 1 1 に対して見付け方向に位置調整することで垂直出しし、これにより、枠体 6 6 の建付調整をする。その後、可動見付け片部 1 7 , 1 8 の取付片部 1 7 3 , 1 8 3 を固定見付け片部 1 3 , 1 4 にネジ止めし（図 5 (B) 参照）、シール目地 1 9 にシール材 1 9 1 を充填する（図 4 参照）。

最後に、戸体 6 8 を X 軸方向にスライド可能に上枠 6 1 に上吊り支持させることで、開口部 4 A に引き戸 6 を設置する（図 1 および図 3 参照）。開口部 4 A には、支柱 2 A , 2 B にそれぞれ固定された固定縦材 1 1 と、固定縦材 1 1 にそれぞれネジ止めされた可動縦材 1 5 とによって引き戸 6 の取付構造（建具取付構造）が構成される。

40

【 0 0 1 4 】

以下、引き違い窓 7 の開口部 4 B への取付手順について説明する。

まず、窓枠 7 5 の一方の縦枠見込み片に取り付けられた可動縦材 1 5 の凹溝 1 5 1 に固定縦材 1 1 の固定見付け片部 1 3 , 1 4 を呑み込ませた状態にして縦枠 7 3 を構成する。一方、他方の縦枠見込み片に取付縦材 1 1 1 を取り付け縦枠 7 4 を構成する。このような状態とした窓枠 7 5 を開口部 4 B に配置する。

次に、固定縦材 1 1 を Z 軸方向において可動縦材 1 5 の凹溝 1 5 1 から突出させて支柱 2 A の後片部 2 2 に押し当て、前記後片部 2 2 に固定縦材 1 1 の固定見込み片部 1 2 をネジ止めする。このようにネジ止めした固定縦材 1 1 は、支柱 2 A の後片部 2 2 に沿って配置される。続いて、可動縦材 1 5 を固定縦材 1 1 に対して見付け方向に位置調整することで

50

垂直出しする。一方、取付縦材 1 1 1 を、外壁 5 に固定された躯体縦材 9 A にネジ止めする。このようにして、窓枠 7 5 の建付調整をする。その後、可動見付け片部 1 7 , 1 8 の取付片部 1 7 3 , 1 8 3 を固定見付け片部 1 3 , 1 4 にネジ止めし、シール目地 1 9 にシール材 1 9 1 を充填する。

最後に、外障子 7 6 および内障子 7 7 を Z 軸方向に引き違い可能に窓枠 7 5 内に設置する。開口部 4 B には、支柱 2 A に固定された固定縦材 1 1 と、固定縦材 1 1 にネジ止めされた可動縦材 1 5 と、躯体縦材 9 A に取り付けられた取付縦材 1 1 1 とによって引き違い窓 7 の取付構造（建具取付構造）が構成される。

【 0 0 1 5 】

以下、固定窓 8 の開口部 4 C への取付手順について説明する。

10

まず、固定窓 8 の図示しない上枠および下枠の一端側に取り付けられた可動縦材 1 5 の凹溝 1 5 1 に固定縦材 1 1 の固定見付け片部 1 3 , 1 4 を呑み込ませた状態として縦枠 8 2 を構成する。なお、縦枠 8 3 は、固定窓 8 の上枠および下側の他端側に取り付けられた取付縦材 1 1 1 によって構成されている。このような状態とした固定窓 8 を開口部 4 C に配置する。

次に、固定縦材 1 1 を Z 軸方向において可動縦材 1 5 の凹溝 1 5 1 から突出させて支柱 2 B の後片部 2 2 に押し当て、前記後片部 2 2 に固定縦材 1 1 の固定見込み片部 1 2 をネジ止めする。このようにネジ止めした固定縦材 1 1 は、支柱 2 B の後片部 2 2 に沿って配置される。続いて、可動縦材 1 5 を固定縦材 1 1 に対して見付け方向に位置調整することで垂直出しする。一方、取付縦材 1 1 1 を、外壁 5 に固定された躯体縦材 9 B にネジ止めする。このようにして、固定窓 8 の窓枠の建付調整をする。その後、可動見付け片部 1 7 , 1 8 の取付片部 1 7 3 , 1 8 3 を固定見付け片部 1 3 , 1 4 にネジ止めし、シール目地 1 9 にシール材 1 9 1 を充填する。

20

最後に、面材 8 1 を固定窓 8 の窓枠に設置する。開口部 4 C には、支柱 2 B に固定された固定縦材 1 1 と、固定縦材 1 1 にネジ止めされた可動縦材 1 5 と、躯体縦材 9 B に固定された取付縦材 1 1 1 によって固定窓 8 の取付構造（建具取付構造）が構成される。

【 0 0 1 6 】

前述したように開口部 4 A ~ 4 C に建具（引き戸 6、引き違い窓 7、固定窓 8）が設置された玄関庇 1 には、建物の外壁 5 前に屋内外を仕切った風除け室 1 0 0 が構成される（図 3 参照）。

30

【 0 0 1 7 】

[変形例]

前記実施形態では、可動縦材 1 5 の可動見付け片部 1 7 , 1 8 を固定縦材 1 1 の固定見付け片部 1 3 , 1 4 にネジ止めしているが、例えば Y 軸方向に沿った軸周りの捩じり力が可動縦材 1 5 に対してあまり加えられない環境下においては、図 6 に示すように可動見込み片部 1 6 を固定見込み片部 1 2 にネジ 1 0 によってネジ止めしてもよい。具体的には、固定見込み片部 1 2 の見込み方向における略中央部分に可動見込み片部 1 6 側に凹んだ溝部 1 2 1 を形成し、且つ、溝部 1 2 1 にネジ 1 0 と螺合する裏当板 1 2 2 を設けて固定縦材 1 1 を構成する。一方、可動見込み片部 1 6 の保持溝 1 6 1 の底部および固定見込み片部 1 2 に調整ネジ 1 0 A を貫通させて裏当板 1 2 2 に螺合させる。このように可動縦材 1 5 を固定縦材 1 1 に取り付けた場合には、シーリング前であれば、調整ネジ 1 0 A のネジ込み調整によって可動縦材 1 5 の固定縦材 1 1 に対する位置調整ができる。

40

前記実施形態では、可動縦材 1 5 の可動見付け片部 1 7 , 1 8 における側縁部 1 7 1 , 1 8 1 は、折曲片部 1 7 2 および取付片部 1 7 3 によって段形状とされているが、このように段形状とされずに見付け方向に真っ直ぐ延びて形成されていてもよい。この場合においても、固定見付け片部 1 3 , 1 4 と固定縦材 1 1 の固定相手（支柱 2 A , 2 B、躯体縦材 9 A , 9 B）との間に形成される間隙によってシール目地 1 9 が形成される。

前記実施形態では、可動縦材 1 5 が固定縦材 1 1 の固定見付け片部 1 3 , 1 4 を呑み込んでいるが、これとは逆に、固定縦材 1 1 が可動縦材 1 5 の可動見付け片部 1 7 , 1 8 を呑み込んで構成されていてもよい。この場合、固定縦材 1 1 の固定見付け片部 1 3 , 1 4 に

50

ネジ 10 が打ち込まれて可動見付け片部 17, 18 にネジ止めされていてもよい。また、固定縦材 11 の固定見込み片部 12 と固定見付け片部 13, 14 との連続部分にシール目地形成用の段部を形成し、この段部にシール材 191 を充填してもよい。

前記実施形態では、躯体縦材 9A, 9B に対しては取付縦材 111 をネジ止めしているが、これに代えて、躯体縦材 9A, 9B に固定縦材 11 を固定し、当該固定縦材 11 に可動縦材 15 を位置調整して取り付けられる構成としてもよい。

前記実施形態では、開口部 4A ~ 4C のすべてに建具（引き戸 6、引き違い窓 7、固定窓 8）が設置されているが、開口部 4A ~ 4C のいくつかに建具を設置せずに開放してもよい。また、開口部 4A ~ 4C に設置される建具は前述したものに限られず各種の建具が設置可能である。

【0018】

[本発明のまとめ]

本発明の建具取付構造は、支柱および屋根を備えた玄関庇に形成される開口部に建具を取り付ける建具取付構造であって、前記支柱に沿って固定される固定縦材および前記固定縦材に取付可能な可動縦材によって前記建具の縦枠が構成され、前記固定縦材は、前記支柱に固定される固定見込み片部と、前記固定見込み片部に連続した一对の固定見付け片部とを有し、前記可動縦材は、前記固定見込み片部に対して間隔を隔てて対向する可動見込み片部と、前記可動見込み片部に連続した一对の可動見付け片部とを有し、前記一对の可動見付け片部は前記一对の固定見付け片部に対して位置調整可能に重なって配置されていることを特徴とする。

本発明の建具取付構造によれば、例えば支柱が垂直方向に対して傾いていても、固定縦材を支柱に沿って固定し、建具に設置された可動縦材を固定縦材に対して位置調整することで垂直出しを行うことができ、垂直出しした可動縦材を固定縦材に取り付けることで、建具を開口部に建付調整した状態で設置できる。

また、例えば建具を支柱に直接固定する場合には、支柱および建具の間に介物を設置して建具の建付調整をする手間を要するが、本発明では固定縦材に対して可動縦材を位置調整できるので、このような介物を設置する手間を要しない。

【0019】

本発明の建具取付構造では、前記可動縦材は、前記固定縦材の一对の固定見付け片部を呑み込んで配置され、前記一对の可動見付け片部のうち前記固定見込み片部側に位置する側縁部は、見込み方向において前記一对の固定見付け片部側に折曲された折曲片部と、前記折曲片部から更に見付け方向において前記固定見込み片部側に延出した取付片部とによって構成されていてもよい。

このような構成によれば、一对の可動見付け片部の取付片部をネジ等によって一对の固定見付け片部に取り付けることで、シーリング作業が容易な所定深さ寸法を有したシール目地を構成できて止水性を向上できる。また、取付片部を固定見付け片部に取り付けるネジ等をシール材によって埋めることで意匠性を向上できる。

【0020】

本発明の建具取付構造では、前記一对の可動見付け片部は、前記一对の固定見付け片部に対してそれぞれ取り付けられていてもよい。

このような構成によれば、上下方向に沿った軸周りの捩じりに対する強度を高めることができ、建具の開口部への取付強度を向上できる。

【0021】

本発明の玄関庇は、支柱と、屋根と、開口部に設置された建具と、前述した本発明の建具取付構造における固定縦材および可動縦材とを備え、前記支柱に沿って固定される前記固定縦材および前記固定縦材に取付可能な前記可動縦材によって前記建具の縦枠が構成され、前記一对の可動見付け片部は前記一对の固定見付け片部に対して位置調整可能に重なって配置されていることを特徴とする。

本発明の玄関庇によれば、前述した本発明の建具取付構造の作用効果と同様の作用効果を発揮可能な玄関庇を構成できる。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 2 】

本発明の建具取付方法は、支柱および屋根を備えた玄関庇に形成される開口部に前述した本発明の建具取付構造を用いて建具を取り付ける建具取付方法であって、前記建具の縦枠を構成する前記固定縦材および前記可動縦材のうち前記固定縦材を前記支柱に固定し、前記可動縦材を前記固定縦材に対して位置調整し、前記可動縦材を前記固定縦材に取り付けることを特徴とする。

本発明の建具取付方法によれば、前述した本発明の建具取付構造の作用効果と同様の作用効果を発揮できる。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 3 】

1 ... 玄関庇、1 0 ... ネジ、1 0 A ... 調整ネジ、1 0 0 ... 風除け室、1 1 ... 固定縦材、1 1 1 ... 取付縦材、1 2 ... 固定見込み片部、1 2 1 ... 溝部、1 2 2 ... 裏当板、1 3 , 1 4 ... 固定見付け片部、1 5 ... 可動縦材、1 5 1 ... 凹溝、1 6 ... 可動見込み片部、1 6 1 ... 保持溝、1 7 , 1 8 ... 可動見付け片部、1 7 1 , 1 8 1 ... 側縁部、1 7 2 , 1 8 2 ... 折曲片部、1 7 3 , 1 8 3 ... 取付片部、1 9 ... シール目地、1 9 1 ... シール材、2 (2 A , 2 B) ... 支柱、2 1 ... 前片部、2 2 ... 後片部、2 3 ... 側片部、3 ... 屋根、4 A , 4 B , 4 C ... 開口部、5 ... 外壁、6 ... 引き戸、6 6 ... 枠体、7 ... 引き違い窓、8 ... 固定窓、9 A , 9 B ... 躯体縦材。

10

20

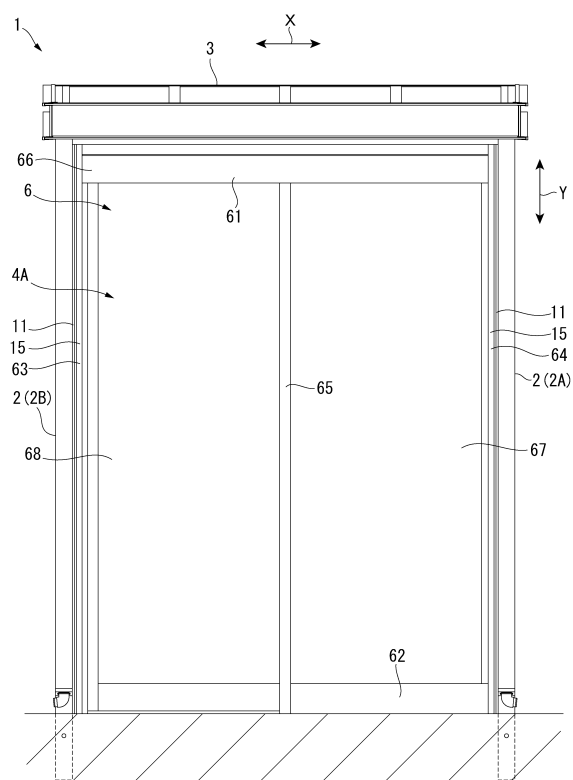
30

40

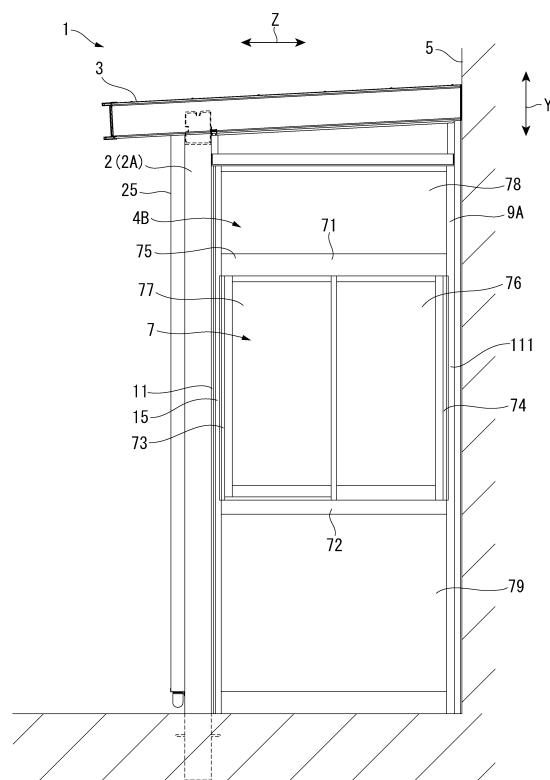
50

【図面】

【 図 1 】



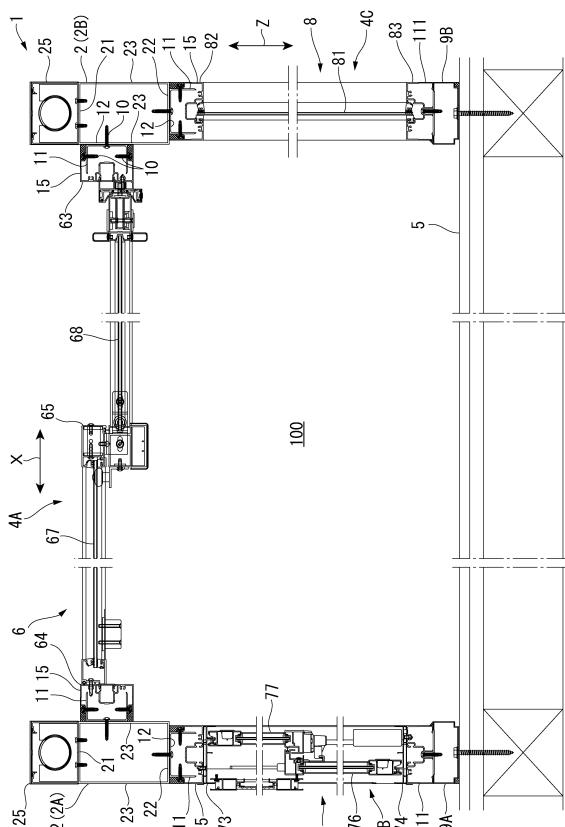
【圖 2】



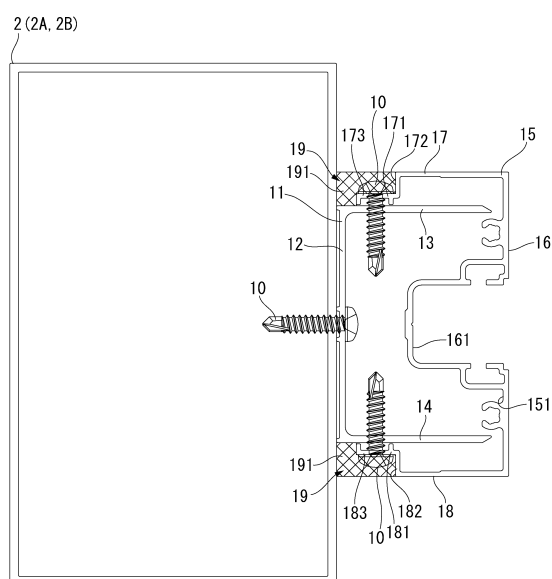
10

20

【圖 3】



【圖 4】

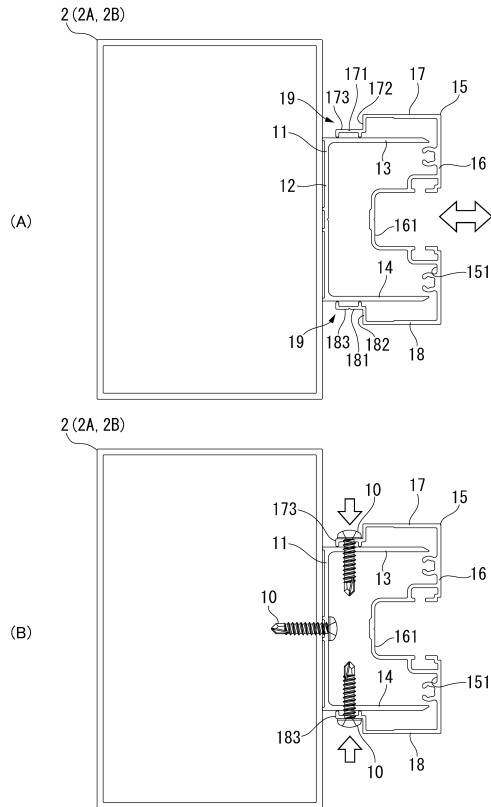


30

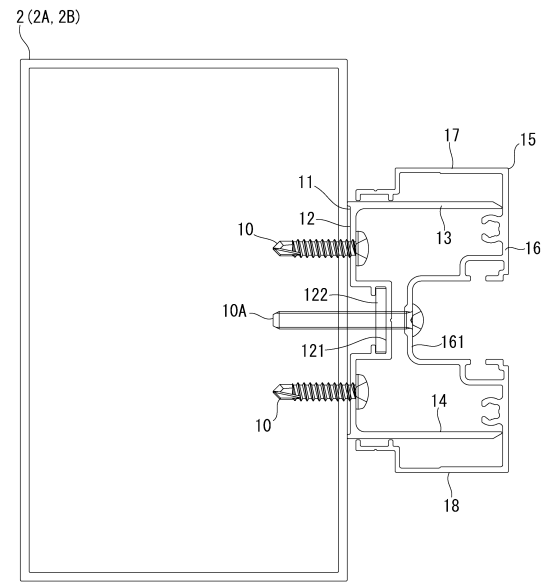
40

50

【 図 5 】



【 図 6 】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開昭 5 6 - 0 5 5 6 4 5 (J P , A)
 特開 2 0 1 7 - 1 7 2 3 0 9 (J P , A)
 実開昭 5 3 - 1 2 6 3 3 4 (J P , U)
 実開昭 5 6 - 0 6 1 6 7 8 (J P , U)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
- E 0 6 B 1 / 0 0 - 1 / 7 0
 E 0 4 B 1 / 0 0 - 1 / 3 6